



AEON MALL

FACT BOOK



イオンモール株式会社

イオンモールは、地域の皆さまのより良い暮らしの未来に貢献します。

イオングループの中核企業としてディベロッパー事業を担い、ショッピングセンターの開発・運営を行っています。

イオンモール株式会社

イオンモールは、大型ショッピングモールの開発・運営を行い、日本・中国・アセアンで規模を拡大しています。人々の笑顔があふれる施設環境を整えるとともに、Life Design Developerとして地域の皆さまのより豊かな暮らしの実現を推進。国や地域の特性、近隣で生活する人々のライフスタイルに応じて商業施設の枠を越えた多様な価値を提供しています。

イオンモールの理念

基本理念	お客さま第一
経営理念	イオンモールは、地域とともに「暮らしの未来」をつくるLife Design Developerです。
経営ビジョン	アジア50億人の心を動かす企業へ
コーポレート・メッセージ	 ひとと、まちも、きらきら。

営業収益
(2023年度)

4,231億6,800万円

従業員数
(2024年2月末現在)

5,507名

施設数
(2025年3月末現在)

203施設

Vision 2030

イオンモールは、地域共創業へ。

当社の2030年のあるべき姿として、同じ志を持つ全てのステークホルダーをつなぎ、持続可能な地域の未来につながる営みを共創することをめざしています。

イオングループについて

イオンは1758年に創業し、小売、ディベロッパー、金融、サービス、およびそれらに関連する事業を営むグループ会社の事業活動の管理を行っています。2024年2月末現在、イオングループはイオン株式会社とグループ企業を合わせて約300の企業で構成し、アジア最大規模の小売企業へと成長。「お客さま第一」を実践し、革新を続けています。

営業収益
(2023年度)

9兆5,535億円

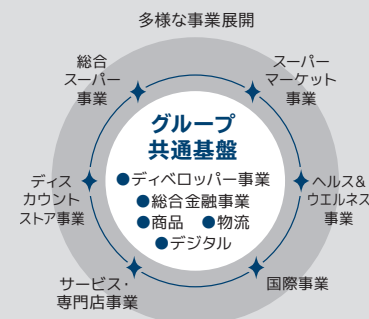
グループ従業員数
(2024年2月末現在)

約59.9万名

店舗数
(2024年2月末現在)

17,887店舗/カ所

※連結子会社、持分法適用関連会社の合計





計
203
施設

中国 
24 施設

日本 
163 施設

ベトナム 
7 施設

カンボジア 
4 施設

インドネシア 
5 施設

**日本から海外へ。
中国・アセアンでも
成長を続けています。**

イオンモールは、各国で活気あるまちづくりにつながる
新規オープンや地域社会の変化に応じた
増床リニューアルを推進しています。
それぞれの国や地域のニーズに沿った施設づくりで、
日々多くの皆さまにご愛顧いただいています。

History of AEON MALL

JAPAN

1992
■青森県にイオンモールの
1号店をオープン

日本の郊外に出店

1911
会社設立

1990

2000

2010

2020

Life Design Developer
としてアジアNo.1へ挑む

Vision 2030
イオンモールは、
地域共創業へ。

CHINA/ASEAN

海外進出に着手

2008
■中国・北京に
海外1号店をオープン

2011

- 中国・天津市商務委員会と協力協定を締結
- 中国・武漢市人民政府と協力協定を締結

2014

- カンボジアへ初出店(イオンモール プノンペン)

2015

- インドネシアへ初出店
(イオンモールBSD CITY)
- ベトナムへ当社として初出店
(イオンモール ロンビエン)
- 中国の旗艦店オープン
(イオンモール武漢經開)

出店を加速・ドミナント戦略推進

2020

- ベトナムで複数の自治体と協力協定の
締結を開始

2021

- 中国・湖南省長沙市人民政府と
協力協定を締結

2023

- カンボジアに保税・
非居住者倉庫を設立して
物流課題解決を支援
(シハヌークビル FTZ
ロジスティクスセンター)

ベトナムや中国内陸部を重点出店エリアに

全国各地へ多店舗展開

2001

- イオンモール(株)へ社名を改称

2002

- 東証一部へ株式上場

2007

- (株)ダイヤモンドシティと合併

2008

- 埼玉県に日本最大級の商業施設を出店
(イオンレイクタウン)

地域の特性に合わせて多様化

2013

- イオンリテール(株)の
大型商業施設の運営管理業務受託
- 本社所在エリアに旗艦店出店
(イオンモール幕張新都心)

2016

- 都市型SCを展開する(株)OPAを子会社化

2018

- 地域創生型商業施設の1号店出店
(THE OUTLETS HIROSHIMA)

地域特性に応じた多様な業態を展開

2021

- 当社初の
オフィス複合型商業施設を
オープン
(イオンモール Nagoya Noritake Garden/
BIZrium名古屋)



2023

- 東京都心に
緑あふれる商業施設を出店
(JIYUGAOKA de aone)



163
施設
(2025.3)

40
施設
(2025.3)

イオンモールのビジネスモデル： 圧倒的な事業規模と集客力で全国に展開

各地で新規出店を進めるとともに、既存モールの増床・リニューアルやこれまでにない新しい価値を提供する新業態の開発に取り組むなど、地域の皆さまの生活に寄り添うことで一つひとつのモールが暮らしの拠点をめざしています。

■イオンモールの事業体系

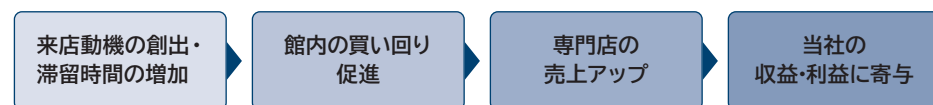
商業ディベロッパーとしてショッピングモールの開発から運営までを一貫して担い、長期的な関わりの中でより良い地域の実現に取り組んでいます。



事業環境の変化に応じたビジネスモデル改革を推進

■既存モールのリニューアルにより収益力を強化

オープン後のモールは、その地域の環境やニーズの変化に合わせて増床を含む定期的なリニューアルを行っています。専門店を入れ替えるなど売り場を見直すとともに、より快適で居心地の良いモールづくりで魅力を高め、お客さまの来店動機を創出しています。



JAPAN	
施設数	163
総賃貸面積 (GLA)	約 8,159 千㎡
年間来店客数	約 10 億人
※2025年3月末現在	



イオンモール豊川(愛知県) 2023年4月グランドオープン

イオンモール太田(群馬県)

増床リニューアルオープン: 2024年4月

総賃貸面積		専門店舗数	
約 62,000 ㎡	▶ 約 76,000 ㎡ (+約 14,000 ㎡)	150 店舗	▶ 185 店舗 (+35 店舗)

- お子さま専用の飲食スペースを併設した県内最大級のフードコート
- ピクニック気分で食事をお楽しみいただける芝生エリア
- お子さま向けの遊具などを設置した遊び場
- 地域の方々が集う緑豊かな屋外テラス



モールの開発・運営を通して私たちが提供する価値

商業施設の枠組みを越え、より豊かな暮らしの未来を見据えて
訪れる皆さまに安心としあわせをお届けするとともに、地域の暮らしの拠点として多様な価値を創造しています。

安全なモール運営

お客さまの安全を第一に地域の災害リスクを把握し、日頃から万が一に備えることで地域の安全・安心に貢献しています。

〈取り組み例〉

- 専門店従業員も参加する大規模な防災訓練
- 被災時の一時避難所として機能
- 地震などによる天井や設備などの落下防止
- 断水、停電時でも飲料水の利用を可能にする緊急用給水口

地元自治体との
防災協定締結施設数

139

(2024年2月末現在)

地域のインフラ拠点化

バラエティ豊かなファッションや飲食の専門店にとどまらず、公共機能を備えた施設やサービスを揃えています。

〈サービス例〉

- 銀行
- 郵便局
- 医療機関
- 図書館
- 国政、地方選挙における期日前投票所



リアルモールの魅力最大化

「ハピネスモール」をいっしょに。

HEALTH & WELLNESS

心と身体が健康になる
豊かな暮らしの提供

EXPERIENCE

リアル・デジタル両面での
新たな体験・体感の提供

COMMUNITY

お客さま、同友店さま、
地域自治体、企業との共創

SUSTAINABILITY

長期的な
持続可能性の追求

一人ひとりの「しあわせ」が生まれる「ハピネスモール」として、リアルモールならではの笑顔あふれる時間をお届けします。

〈取り組み例〉

- イオンモールウォーキング
- オペラ、歌舞伎、落語鑑賞
- スポーツチームや団体と連携したイベント
- 廃棄ロス削減をめざす衣料品回収

地域への貢献



地域に根ざしたモールづくりを通して文化・産業・観光資源・伝統行事などの魅力を発信し、活き活きとしたまちの発展に貢献します。

〈取り組み例〉

- 伝統的な祭りの継承に貢献
- 地元産業に親しむ機会を創出

専門店との連携

専門店と密接な協力体制を築き営業活動を支援するとともに、従業員が長く働きやすい職場環境の整備に取り組んでいます。

〈取り組み例〉

- 快適な従業員休憩室
- 事業所内保育施設
- 従業員が接客技術を競う接客ロールプレイング大会の開催



アプリの活用

デジタル技術の導入を積極的に進め、お客さまの利便性を向上。当社の独自アプリでは、おトクで便利な機能を提供しています。

〈機能例〉

- スマホ決済
- アプリ限定クーポン
- イベント情報
- 歩数や距離がわかるウォーキング機能

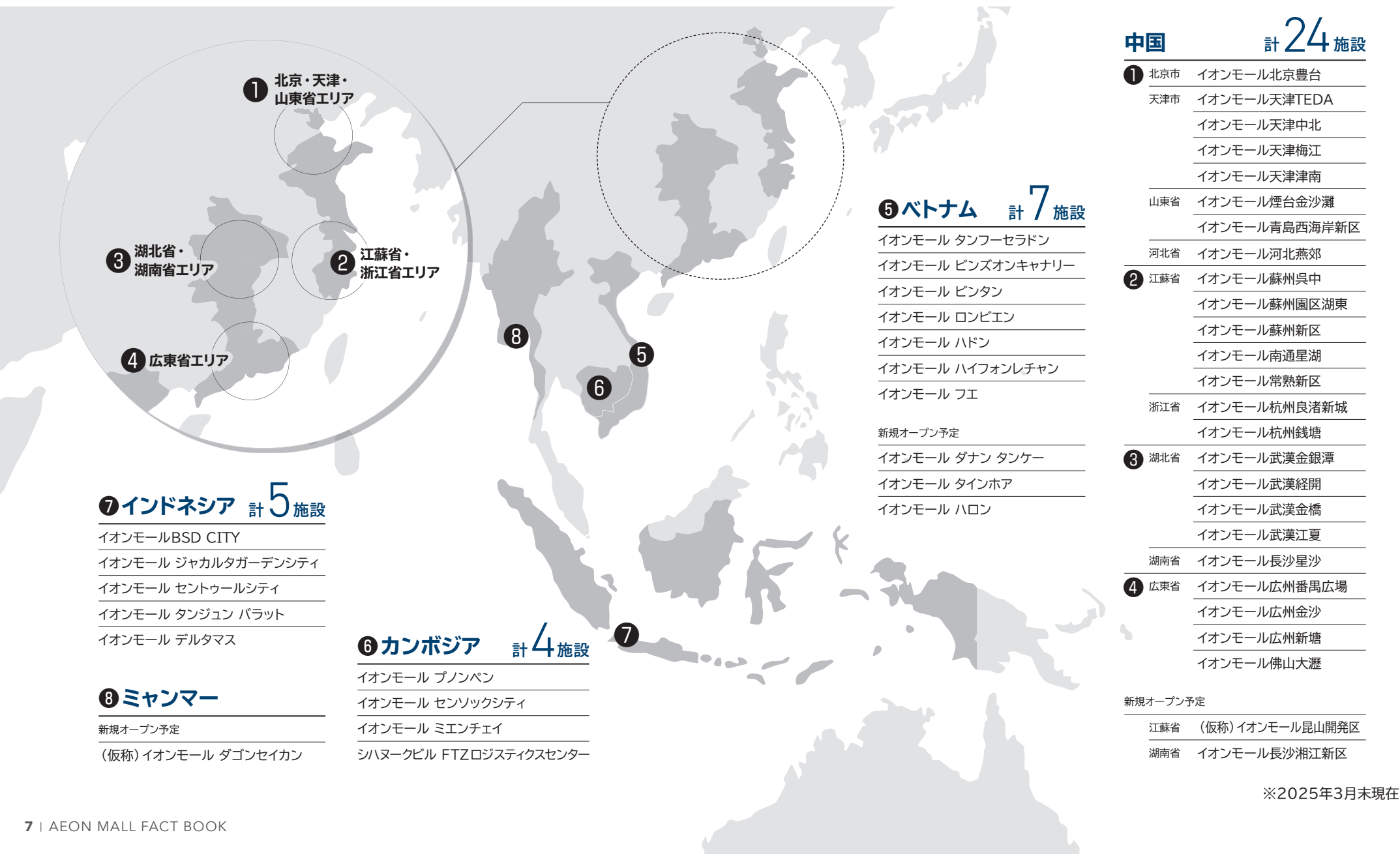


イオンモールアプリ
ダウンロード数

約2,000万

(2025年1月末現在)

成長性の高いエリアを中心に新規出店を加速し 海外でも着実に規模を拡大しています。



将来成長性の高い重点エリアへの出店を加速

イオンモールの優位性

広大な平面駐車場

快適で清潔な館内

丁寧なお客さまサービス

出店企業との協力体制

リアルモールならではの魅力的な体験

施設数

40

総賃貸面積
(GLA)

約2,849 千㎡

年間来店客数

3 億人以上

※2025年2月末現在



イオンモール長沙星沙(湖南省)
2024年9月グランドオープン

CHINA

国内の4エリアを中心としたドミナント戦略により、地域におけるブランド力を高めています。重点エリアへの新規出店や、既存モールの定期的なリニューアルに取り組むとともに、独自性のあるプロモーションを展開しています。

■将来的な発展が見込めるエリアに出店

成長市場である湖北省・湖南省と、エリアブランディングが確立している江蘇省を中心に開発を進めています。

〈今後のオープン予定〉

- 2025年:イオンモール長沙浙江新区(湖南省)
- 2027年:(仮称)イオンモール昆山開発区(江蘇省)



■施設の新たな運営体制を構築

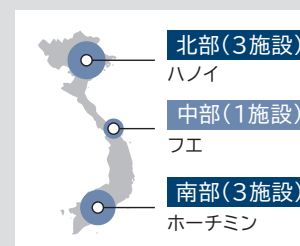
成熟都市部での事業機会の創出を目的に、市街地における商業施設のプロパティ・マネジメント事業を推進。これまで培ってきたノウハウを活かして、テナントリーシングや運営を担ってまいります。

ASEAN

ベトナムを最重要拠点と位置づけ新規出店を加速するとともに、新たな事業機会の発掘・展開をめざしています。また、インドネシアやカンボジアでも市場規模の大きい将来有望なエリアへの出店に取り組んでいます。

■出店エリアを拡大するとともに地方政府と協力関係を構築

ベトナムでは南部のホーチミンエリア、北部のハノイエリアに加え、2024年に中部エリアでもフエ市に「イオンモール フエ」を初出店しました。また、各地の地方政府とショッピングモール開発に関する包括的覚書を締結。協力関係を強化し、同国の持続的な発展に貢献するとともに出店パイプラインの確保をめざします。



■モール開発とともに新事業も展開

カンボジアではプノンペン3モール体制に加え、物流事業「イオンモール カンボジア ロジプラス シハヌークビル FTZロジスティクスセンター」を開設。同国を生産拠点とする工場の部品や海外からの輸入商品を保管する保税倉庫として活用いただいています。

私たちが提供する価値

①国境を越えてつながりを深化

各国に出店するモールを軸に密接な拠点ネットワークを構築。

国境を越えた専門店の出店支援や情報・人材の交流で、新しい価値を創造します。

■各国の魅力を発信しインバウンドを推進

自治体などと協力して観光スポットや商品の魅力を発信するイベントを開催。マーケティングリサーチの機会にもなっています。



函館市の送客PR (中国・イオンモール広州金沙)

北海道函館市の誘客促進を目的としたインフルエンサーのファンミーティングを開催しました。

兵庫県への誘致促進 (インドネシア・イオンモールBSD CITY)

デジタルサイネージでの動画放映やパンフレットの配布を行い、兵庫県の魅力を発信しました。

■海外市場向けのテストマーケティングの機会を提供

海外事業展開をご検討の企業へ、海外市場向けのテストマーケティングを支援しています。

日本産牛乳・乳製品のPRイベント(ベトナム・イオンモール タンフーセラドン)

日本産牛乳・乳製品の輸出拡大をめざす日本の一般社団法人や農林水産省とともにイベントを開催しました。

■文化・スポーツ交流のきっかけを創出

スポーツや文化など共通の趣味を持つ皆さまがモールに集う機会を創出し、人々の交流を促進しています。



Jリーグのパブリックビューイング (インドネシア・イオンモール タンジュン バラット)

日本のプロサッカーリーグのアジア圏での認知拡大を目的に、パブリックビューイングの会場として活用いただいています。

人気オンラインゲームイベント (ベトナム・イオンモール タンフーセラドン)

オンラインゲーム会社と連携したイベントで、ゲーム中継やコスプレコンテストなどを実施。10日間で約4,200名が来場しました。

②地域独自の文化・経済を活性化

各国の文化・風習を尊重したモールづくりを行うとともに、

その地域ならではの魅力の発信に取り組んでいます。

■イオンホールを幅広く活用

各モールには、大人数の収容が可能な多目的ホール「イオンホール」を設置し、個人・団体を問わずさまざまな用途に活用いただけます。カンボジアのイオンホールは約1,000～3,000人の収容が可能で、プノンペン最大級のコンベンション施設として大型イベントにも対応しています。



〈活用例〉

- 企業主催のカンファレンスや販促イベント
- コンサート
- 結婚式
- eスポーツ大会

■スポーツの魅力にふれる機会を提供

スポーツを通じて健康的なライフスタイルを促進するとともに、国際大会や未来の代表選手を発掘する大会の会場としてモールを活用いただいています。



〈イベント例〉

- Brick Parkour Asian Tour 2023
- AEON MALL Indonesia Badminton Cup 2023

■地域のニーズに応える施設活用

夜間の外食利用のニーズが高い中国において、モールのスペースを提供して夜間経済の盛り上げに貢献しています。



インドネシアでは、ダンスや空手など同じ趣味を持つ地域の人々が集まる活動拠点として、さまざまなイベントの定期開催を通してコミュニティを形成しています。



私たちが提供する価値

③安全・安心・快適の追求

ゆったりとくつろぎながら滞在できるモールであるために。

幅広い世代の皆さまにとって過ごしやすく安全性の高い商業施設をめざします。

■居心地の良い施設環境を構築

日本で培ったノウハウを活かして、清潔感、安全性、お客さま対応など高いレベルでサービスを提供。訪れる全ての皆さまにとって快適な環境づくりに努めています。

〈取り組み例〉

- 広大な平面駐車場
- 施設の内外にグリーンを配置した心地よい空間づくり
- 段差のないバリアフリーな館内
- おむつ交換スペースなどを備えた授乳室



館内各所に設置した休憩用のベンチ

■デジタルの力で館内サービスの利便性を向上

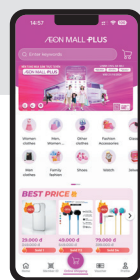
ストレスフリーなスマートモールを実現。お買い物や館内で過ごす時間を、より便利で快適にしています。

〈取り組み例〉

- タッチパネル式のフロアガイド
- アプリによるお子さまを乗せるカートの貸し出しや荷物ロッカーの利用
- 館内の離れた場所からオンラインでお問合せできるインフォメーション
- IoTを活用した空調や照明など館内の設備管理
- 動物や風などの3D映像で館内を演出するデジタルサイネージ

お買い物の利便性を高める独自アプリ

2024年より、ベトナムの4モールでECプラットフォーム「AEON MALL PLUS」を導入しました。アプリを通じて安全に商品を購入いただけるほか、さまざまな特典をご用意し顧客体験を向上します。



■さまざまなリスクを検討し安全・安心を実現

日頃から警備体制を強化するほか、防災システムの導入や防災訓練など、あらゆるリスク管理と対策を通して災害に強い施設づくりを行っています。

〈取り組み例〉

- 飲食店舗に安全な水道水を供給する浄水装置
- 当社独自の食品衛生管理基準を採用した食品の安全管理
- 防火シャッターなどの自動防災システム
- 万が一破損した際の飛散を防止するガラス
- 停電時にバックアップ用発電機に切り替え可能なシステム



専門店従業員も参加して実施する防災訓練

■暮らしに欠かせないインフラ機能を提供

ショッピングや食事だけでなく、地域の皆さまの暮らしに関わるさまざまなサービスを提供し、インフラ拠点としての役割を担っています。

〈サービス例〉

- 銀行 ● 郵便局 ● 医療機関 ● 学習塾 ● 免許センター ● 献血ステーション
- 住民票の登録や各種証明書の発行が可能な行政サービス窓口

地域の皆さまの憩いの空間

モールの館内外に、お子さま向けの遊具を設置した広場、緑豊かな公園、ペットと一緒に利用できる遊具や休憩エリアなど開放的なスペースを設けています。



遊具を設置したキッズスペース

持続可能な社会の実現を推進

以前より、当社ではモールビジネスを展開するとともに、企業活動の一環としてさまざまな環境課題の解決を進めてきました。特に地域の皆さまと持続可能な社会の実現をめざす取り組みとして、「脱炭素社会の実現」「サーキュラーモールの実現」「生物多様性の保全」の3つを推進。環境負荷を低減し、地域が一体となってサステナブルな未来の実現に貢献する社会をめざします。

脱炭素社会の実現

再生可能エネルギーの積極的な活用を推進

サーキュラーモールの実現

資源が循環し
廃棄物削減に
つながる仕組みを構築

生物多様性の保全

多種多様ないきものと
共生する緑あふれる
施設づくりを実現



太陽光発電電力
使用モール数

約**60**モール



「まちの発電所」の
年間発電量

約**120**MW

(一般家庭の約30,000世帯分)



再生可能エネルギーの
自給率

約**10**%



館内の衣料品回収BOXに
集まった衣料品の量

約**56,900**Kg

(稼働年間)



EV(電気自動車)の
充電器の設置台数

1,857基



モールで出たごみの量と
リサイクル率
(サーマル・リサイクルを含む)

約**78,880**t **91.3**%

※国内のみ ※2024年2月末時点(2023年3月～2024年2月)

豊かな自然を守る「イオン ふるさとの森づくり」



イオングループ
累計植樹本数

約**1,269**万本



(2024年2月末現在)

1991年から、お客さまとともにモールの敷地内にその土地由来の苗木を植える「イオン ふるさとの森づくり」に取り組んでいます。植樹活動を通して二酸化炭素の削減につなげるとともに、豊かな生態系を育む森への成長を促し、環境保全に貢献しています。各モールでは「いきもの調査」として植樹エリアを定点観測し、鳥・昆虫・植物などの生息状況をデータベース化する取り組みも実施。これまでに1,740種ものいきものを観測し、ふるさとの森づくりが地域の生物多様性価値を高める役割を担っていることが明らかになりました。

外部機関による認証

イオンモールのサステナブルな取り組みは、国内外でさまざまなESG評価機関から評価いただいています。本冊子ではその一部をご紹介します。



国際的な環境調査と情報開示を行うCDPにおいて、気候変動への戦略および対応について「A-」評価を獲得しました。



環境・社会・ガバナンス配慮を測る国際的なベンチマークであるGRESBリアルエステイト評価で、最上位の「5スター」評価を取得しました。

■生物多様性に配慮した取り組みでABINC認証を取得

ABINC認証は、一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブが作成・登録した「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」に基づき、生物多様性に配慮した緑地づくりなどの取り組みを、いきもの共生事業推進協議会が第三者的に評価・認証するものです。イオンモールは、認証モール数の拡大を進めており、2025年3月現在、日本国内の21モールが取得しています。

取得モール数

21

モール

会社概要 (2024年5月23日)

会社名	イオンモール株式会社
設 立	1911年(明治44年)11月
代表者	代表取締役社長 大野 恵司
資本金	42,383百万円 (2024年2月末現在)
発行済株式総数	227,560,939株 (2024年2月末現在)
本社所在地	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1 7F・8F
代表番号	TEL:043-212-6450
URL	https://www.aeonmall.com
事業内容	大規模地域開発及び ショッピングモール開発と運営 不動産売買・賃貸・仲介 [国土交通大臣(4)第7682号]
施設数	203店舗(国内163/海外40)(2025年3月末現在)
従業員数	5,507名(2024年2月末現在)
各国オフィス	永旺夢楽城(中国)投資有限公司 AEON MALL(CHINA)Co., LTD. +86(10)6566-3288 AEON MALL VIETNAM CO., LTD. +84-24-3944-9815 AEON MALL(CAMBODIA)CO., LTD. +855-(0)23-988-100 PT. AEON MALL INDONESIA +62-(0)21-5569-5203

財務情報(連結)

年 度	(百万円)	
	2022 (2022.3.1~2023.2.28)	2023 (2023.3.1~2024.2.29)
営業収益	398,244	423,168
営業利益	43,979	46,411
経常利益	36,409	37,086
親会社株主に帰属する当期純利益	12,994	20,399
1株当たり当期純利益(円)	57.10	89.64
自己資本当期純利益率(%)	3.0	4.5
総資産経常利益率(%)	2.4	2.3
総資産	1,559,592	1,655,253
純資産	451,711	476,226
自己資本比率(%)	28.2	28.0
1株当たり純資産(円)	1,935.77	2,040.33
有利子負債残高	794,199	857,218
有利子負債比率(%)	50.9	51.8

